



TITLE:

經濟に於ける統制と體制

AUTHOR(S):

高田, 保馬

CITATION:

高田, 保馬. 經濟に於ける統制と體制. 經濟論叢 1940, 51(3): 301-318

ISSUE DATE:

1940-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/131439>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十五卷第三號

昭和十五年九月

論叢

スミスとリスト

經濟學博士

堀

經夫

經濟變動と財政

經濟學博士

沙

見三郎

時論

經濟に於ける統制と體制

文學博士

高

田保馬

研究

元史食貨志に見はれたる貨幣思想

經濟學士

穗

積文雄

統制組織と問屋金融

經濟學士

田

杉

競

原始教團の共同性

經濟學士

澤

崎堅造

說苑

橋本左内の經濟思想

經濟學博士

本

庄榮治郎

滿洲大豆の發展

經濟學士

江

頭恒治

附錄

彙報

外國雜誌論題

經濟に於ける統制と體制

高 田 保 馬

國民再組織の實現が愈々間近いこととなり、従つて經濟も新しい體制を具へることになると思はれる。此際、經濟の統制と體制の關係を考へてみたいと思ふ。來るべき體制の如何なるものであるかは、少くも執筆の時期である今日に於て一向明にせられてゐないことでもあり、それを吟味したり、又は是非したりしようとする意圖をもつのではない。たゞ理論的の立場から此問題についての概觀を加へて見ようと思ふ。

經濟が近代のやうな發展を示してから、一派の表現をすれば獨占資本主義段階に達してから、その上に何等かの統制を加へねばならぬといふことは、各國に於ける大勢であつた。勿論カルテルなどの所謂自治統制とても廣義に於ける統制ではあらうが、茲には資本主義とは異なつた方針をめざす統制だけをあげようと思ふから、しばらくそれを離れて見ることにする。此資本主義經濟に對する統制の必要は一體どこにあるか。

これに立入るについては、今日資本主義經濟が何故に没落するであらうと考へられ、又は何故それを變革しなければならぬと考へられてゐるかを述べる必要がある。それは貧富のあまりなる懸隔を生じ、別して多數の失業を慢性的ならしめるといはれてゐる、またそれは無政府的な生産であるから、景氣の變動を避けがたきものに、従つて生産力の損失を必至ならしめるといふ。そこで、いほどあまりなる不平等と、あまりなる損失即ち生産力の消耗とがある。一は分配のことからであり、他は生産のことからである。而してこの二は對外の關係を外にしても共にそれ自體として考へらるべきことに外ならぬ。

ところで、所謂自由主義の國家とても此二點については既にある程度まで統制にのりこんでゐる。勿論それを狹義に於ける統制とはいはぬものもあらう。そこには種々なる條件が制度又は政府の裁量によりて與へらるゝにしても、此條件の下に於ける需給は自由に作用することが出来る仕組になつてゐるのである。而して價格、又は需給の數量そのものを拘束するときに、統制は更に一步を進めたるものとなる。普通に統制經濟といはるゝものはこれを指すと考へられうるであらう。さて需給の作用を自由に残しながら加へらるゝところの統制は如何なる性質のものであるか。思ふに、これが普通に資本主義の修正といはれてきたものであらう。勿論、ファッショやナチスの經濟とでもある意味に於て、修正資本主義といひ得るにしても、それは一般的なる云ひ方とは考へられぬ。

まづ、階級的懸隔、即ち貧富の距離の増大に對する對策としては主として租稅政策、ならびに多くはそれを前提とする社會政策的施設が行はれる。生産力を極大にまで發揮せしむる政策としては、景氣政策、例へば中央銀行の信用政策や政府の財政政策などが實行せられてゐる。英吉利の労働黨の内閣の諸政策、ついでは舉國內閣の

軍備充實政策、北米合衆國のニュー・ディールの如き、皆かゝる性質をもつものである。中には放膽強力の政策もあるが、それあるにしても、原則として需給の作用は自由に残されて居り、市場の機構そのものには拘束が加はらぬ。それゆゑに、資本主義經濟に對してそのもたらしたる社會的不平等の故に修正を加へようとする立場からは、此方針をどこまでも強化することによつて一應の解決に達しうるといふ見方も成り立ち得るであらう。けれども、これはたゞ距離の短縮不平等の削減だけを目標にするときのことであつて、一の國家全體の生産力を問はない場合のことである。

分配と生産流通とが切りはなしがたき如き一體をなしてゐることはいふまでもないが、こゝでは議論の便宜上切りはなして論を進める。若し分配のみを視野に置かず、進みて一國の生産を最も豊ならしめようとするときに少くも生産力の損失を防止しようとするときに當然景氣による動搖や摩擦は取除かるゝことを要し、經濟に於けるすべての安定が求めらるゝことを要する。自由主義經濟の組織をそのまゝに存置したる諸國に於ても、その方策が講ぜられぬわけではない。而して同一の政策が同時に社會の不平等を匡正するといふ意味すらをもつ。即ちそれは失業を減少するとともに、所得の再分配すらを目ざすのである。歐洲大戰後の諸國が巨額の失業手當の爲に財政困難を來すや此要求は加はつた。かゝる方針に進むためには時に産業の自治統制をすらも強要する。日本に於ける重要産業統制法の如きはかゝる意義をもつものであつた。けれども此方針は主として國家の權力によつて直接に、又は中央銀行を通じて間接に、實行にうつされてゐる。ただ、今までのところ、それは十分に目的を達し得たともいへず又達し得るとも考へられぬ。

恐らく問題の根柢はルウズヴェルトの積年の努力にも拘はらず、又放膽なる政策にも拘はらず、何故にニユウ・デイルは高率の失業を排除し得ないか、又獨伊は何故比較的によく成功したか、といふことにあるであらう。事實に於て英米はともに國家統制の強化によりて、具體的にいへば條件統制によりて需給の作用をそのまゝにのこしながら此目的を達しようとした。けれども事はどれほどに困難であるか。ケインズは信用政策に重點を置きながら利子の低下に限界があり、景氣對策にせまき限界の劃せられてゐることを自認せざるを得なかつた。それとともに北米合衆國の現在の政策はそのすべての努力を傾け盡したる後、而もなほ失業の去らざる現狀によつて、此方針にある限界の存することを示してゐないであらうか。狹義の統制はそこからはじまる。それは需給といふ市場活動の行はるゝ條件を統制するに止まらず、需給そのものをも、いはゞ條件のみならず、作用乃至活動そのものをも統制しようとする。詳言すれば、價格に干渉し、需給の行動そのものを阻止し又は強要する。これには二の段階があり得る。一は業者の集團の力を借らずして政府自ら權力を以てこれにあたることである。日本の最近の統制はなほ未だ此種類を脱しないかと思ふ。組合を通すことはあるが、此組合は未だ上意下達、命令服従の通路であるけれども、組合自體が強制乃至壓力を以てのぞむのではない。他は業者の集團の力を通じて行はるゝものである。勿論封建制度に於ける都市の職業團體は自治的にかゝる強制を營み得たのであるが、今日に於てそれは問題とならぬ。國家の全面的干渉を背景に置いて考へると、國家權力の下に、又はそれに協力して業者の集團的壓力が此方針に進むといふことが第二の段階として考へられる。獨伊の現狀はそれの如何なるものであるかを例示してゐる。

統制の目標は進みて生産の質に及ぶ。換言すれば、一國生産の全能力を發揮するが爲には、景氣による變動、ことに不況による生産要素の休閒、生産物の破棄をなくすることが必要である。けれども、これだけの目的の爲には、必ずしも生産の質を決定することを要しない。各部門の均衡が必要であるにしても、國家はたゞ指導匡正の機能を營みそれ以上は市場の機構進みては業者の自治的行動に委せうるであらう。少くも數量均衡のみを目標とするとき國家又は産業中央機關が計畫に乗り出さねばならぬといひうるかどうか。これには複雑なる問題、別して經濟計算の問題が横はる。これについて今、答解を與へようとする意圖をもつてゐない。けれども消極的にたゞこれだけをいひたい。計畫を確立しそれに従つて經濟を統制してゆくといふことは、即ち需給に干渉してゆくといいふことは、國家が生産の質を問題とする限り、即ちどういふ品物をどれだけ作らせようとする限り、缺くべからざることがらである。それはいくら條件の上に立ち入つたところで、需給の自由にまかせて出来ることは勿論ない。また、單に中央權力の需給干渉だけで出来ることではない。具體的にいふと警察網のなし得るところに限度のあること、明白なる話である。そこで權力統制以上のものが必要になる。

簡明に表現しよう。國家が國防の必要に應ずる爲に、生産物を統制しようとするが、この要求がある限度以上にのばれば、即ちその國の生産力の主要なる部分を傾けて軍需に集中させねばならぬといふことになる。一定の計畫をたて、それに従つて統制をすゝめる外はない。勿論生産物の質に關する統制はたゞ國防からのみ來るとはいひがたいであらう、例へば其國の産業を急速に發達させるとか、其他の必要があり、たゞ一定の方針を指示

し指導するだけでは特殊の生産物が得にくいときには、計畫に従つて生産を強行せしめるといふことになる。これとても、中央權力の手によつてやれぬことはないといふ議論だけはたつ。けれどもこれも警察網の問題である。ソ聯のやうに國家全體の組織を強制の上にうちたてて、いはゞ強制勞働の組織に入りこめば、出來ないわけでもない。けれどもさうでない限り、中央權力のなし得るところに限りがあり、自ら業者の集團的統制を必要とする。ナチスの組織はかゝる目を以て見らるべきものであらう。

前にも述べたやうに、統制經濟といふことがあまりに多くの意味に用ひられてゐる。けれども、それを少くも國家の干涉が需給の上に及び、これを自由のまゝに残さぬ經濟の意味にとるならば、それは單に階級的なる見地からは論理必然的に要求せらるるものとはいひがたい。自ら國防上の優越を信じ、安全感の上に居眠をつゞけて來た英米が自由なる經濟をつゞけて來たのはその故であらう。ところで、國力微弱生産力の損耗や空費を許さぬ伊太利に於ては、眞剣に生産量の擴大を目標として來た。而してこれが爲には單なる條件の強化を以て足れりせず、需給の行動に統制を加へた。それは國權の直接なる干涉即ち狹義の警察の力を以て足らずとする。而してそこに業者の集團即ち組合の力が利用せらるるに至つた。個人の需給、従つて市場の機構が存續する限り、單なる國家機關の手になし得ざるところあるがゆゑと見る外はない。初期のファシズム政府は生産の増加を眼目としてゐたのかと思ふ。進みて國防國家の目標がうちたてられると、生産が軍需に向つて集中せらるることを要しその爲に國權の干涉と集團の統制とが共に要求せらるること、現在の伊太利、別して獨逸の事情の示す通りである。

かうして統制の段階の上に排列して來ると、次の如き概觀をもつことが出来るであらう。所謂自由放任の資本主義から廣義の統制に一步を進めたるものとして英國と北米合衆國の如きものがある。これらの國に於ける統制はまづ階級的距離、即ち所謂分配の不正をめざすものであつた。従つて條件統制を以てその方針とした。而して景氣政策を中心とする生産量政策をも、ある程度までは、此方針によつて實現しようとする。けれども、これはあくまで餘裕ある國家の企圖するところである。國力の急速なる伸長を必要とする國家にあつては、これだけを以て止まり得ぬ。かくて需給の行動への干涉が行はれねばならぬ。此干涉がまづ官治統制として行はれたるものとして日本の現状をあげ得るであらう。それが必然に補助的工作を必要とするに至る。若しくは當初から補完的な集團の統制と相まちて行はれる。これが今日統制經濟といはるるフアッシュズムやナチスのそれである。けれども、此場合集團又は組合の統制は資本主義的なカルテル等の統制と二の點に於てちがふ。一は之を貫く思想である。一は利潤のための統制である。他は國家の利益の爲にする統制である。それと共に、一は國家の權力の作用が少くも原則的には入りこまぬ、十分に自治的な統制である。他は國家權力の作用をいつも背景にもつところの、而して形式に於ては集團自體の統制である。それゆゑにある場合には、一種の自治的な統制であるとも考へられる。日本の今進まうとしてゐる動きは行動に對する官治的な統制から集團的な統制に到達することであるといはれ得るであらう。これを私は次の如き前提に於て述べようとする。

種々なる斷片的報道から察知せらるるところによれば、國民新體制の一部として經濟體制が含まれてゐる。勿論體制といふことを文字通りに解釋するならばそれは組織であり構造であり、従つて今日には今日の體制があ

る。けれども目ざされてゐるものは所謂全體主義國家（こゝではソ聯を除いて考へてゐる）に於ける經濟團體の廣大なる組織をさすのではないか。經濟の各方面に互つて組合的な（又はその他の）集團があり、それが單位となつて全經濟に互る統一的體制を作り上げる。體制といふ言葉は生物學の範圍から社會有機體説により社會の範圍にもちこまれたるものと思ふが、社會有機體説のすたれたる後に於てもなほ社會の範圍に於ける用語として残つてゐる。この言葉の由來が示してゐるやうに、その内容は生物の比喩を以て示すときに、明になり易いものがある。さう考へて來るならば、次の如くに云ひ得よう。下位の集團が一の細胞をなしそれが集まつてその上位の單位をつくり、それが集まつて更に上位の單位をつくり、遂に全經濟が一の單位の中に包攝せられる。もとより此全經濟團體は更に上位のものに包攝せられるであらう。上位の單位にまで統一せらるるところの聯絡としては、産業又は業態の接近により、又は地方的接近による。何れにせよばらばらの經濟單位を細胞組織として聯關をもたせ、そこに神經系統ともいふべき脈絡をつけて、體に作り上げようとするのである。而してこの仕組によつて國策的な統制が如何にして行はるるか。これには種々なる方法又は定型があるであらう。一はその全部又は一部分を國家機關としてしまふことである。伊太利の組織はさういふ一面をもつてゐる。二はその指導者又は監視者として國家の官吏又は黨員をいづれかの段階に入りこませることである。此黨員はつねに國家の意志に従ひ、その利益の爲に動くこととなつてゐる。獨逸の組織はそれの一例であらう。三は内部の統制を全然自治的なものとなし、たゞ國家權力がこれを監督するに止まるものである。これは考への上に於て考へ得るが、どこにもその適例を見出しがたいのではないか。日本の動きが或はかういふ方向に向つて進むのでないかと考へてゐる。

三

補説。北米合衆國に於けるニュー・ディール政策は何故に所期の結果を收め得なかつたか。デェルビノはこれについて次の如くに述べてゐる。フアンノによると、アメリカ政策の失敗の由來はルウズヴェルトが經濟秩序を改めたけれども政治的秩序をそのまゝにしたことに存する。フォサアディによると、ルウズヴェルトはなるほど自由經濟を克服した。けれども、自由國家の見解をすて得ずにゐる。彼は新しき經濟を革新せられたる國家によつて統制することを知らなかつたゆゑに、其政策の破綻に當面せざるを得なかつた。而してこれらの見解は正しいともに經濟を政治から分離し得ざることを示してゐる。なほニュー・ディールと組合主義（伊太利の組合國家による統制をさす）との差異を次の點に於ても認め得るであらう。組合經濟は競争を克服した。而してその代りに組織の原理（叠制の原理）を据ゑた。ニューディールはたゞ競争を公正ならしめようとし、これを訓練しようとしたのに、組合主義は組合組織によつて公益の實現を求めた、競争の原理に置きかふるに組合の原理をもつてしたのである。アリアスのいふやうに組合經濟の卓越してゐる所以は其機構の完全に存するのではなくして、組合の精神が個人の良心となりきつてゐる點にある。¹⁾ さて私は考へる。デェルビノが組合主義經濟に於ては競争の原理が取りのぞかれるといふこと、容易に首肯しがたい。このことは今日、ナチスに於て競争が全く取りのぞかれぬのと同様である。ナチスにあつては經濟的自己責任の原則が高調せられられる。これはいふまでもなく、そこに個人主義のある形に於て作用することを認むるのである。個人主義のある程度に於ける作用を認むことは競争の何等かの形に於ける支配を認めるのではないか。ナチス經濟の性質とファシズム經濟の性質とは種々なる點に於

1) G. de Francisci Gerbino, Die Grundsätze der Korporativismus im Verhältnis zum Individualismus, Conrads Jahrbücher, Sep. 1938, S. 294-295.

て差異あるにせよ、根本に於て異なるものではない。組合主義經濟が競争の原理を排除したといつても個人の企業は自己の利益を求めて行動してゐるであらう。たゞ其際、全體の利益によつて指導せられ拘束せられるといふのである。人間活動の根本動力が私益から全て公益に轉じたといふのではなく、個人の良心の中に組合の精神が入りこんで其行動を統制するといふに止まらう。それゆゑにニュー・ディールの奏效しなかつた事情は全く政治の干渉する範圍の中に求めらるべきである。これを私の言葉を以てくりかへさう。

ルーズヴェルト政策はたゞ經濟の條件をのみ變更した。而して需給の作用を自由に放任した。勿論それによつて所期の目的を達し得ずと斷定することは困難であらうけれどもそこまで條件の變更を行ふには政治的の抵抗が強い、北米合衆國の今の政治組織によつてはそこに到達し得べくもない。條件の變更をそこまでにして置いて(通貨に關する統制、財政の膨脹等)更にその上に需給の統制を十分になし得るならば、そこにはじめて目的に近づきうるであらう。たとへば雇傭の強制、利潤の統制といふが如き、需給數量の強制的干渉の如き。此需給そのものへの直接なる干渉が北米合衆國に於て缺けたところであり、獨伊の政治化せられたる經濟の敢て實行したところである。ファンノ、フォサアティの人人が經濟を改めたけれども政治を改めず、自由國家を改めずといったのはかゝる意味に解せらるべきであらう。此點から見ると、組合主義經濟に於ては經濟の中に、從つて需給の作用の中に政治の作用の入りこむことによつて、ニュー・ディールの收め得なかつた成功を收めたといふべきであらう。

ニュー・ディールは個人の行動が利潤追求の地盤から離れず、組合主義經濟は公益の精神に従つて其目的を達したといへば、ことはすべて倫理又は精神の問題であるかに見えるが、又さういふ言説が専ら行はれてゐるが、

立入つて分析するとさう單純なるものではない。所謂經濟倫理又は經濟道德が經濟統制の目標に到達せしむるといふことは、本來組合統制が無力であるといふのに等しくはないか。倫理が何事かをなし、何かの目標に推し進めるといふのは、政治の干渉、強要をまたずしてそこに行き得るといふことである。干渉をまち強要を通して、いはゞ政治の力によつて一定のところに進みうるものならば、それは經濟倫理の無力なるが故であるといふ外はない。被治者にとつて政治と倫理とは相斥くる概念である。倫理の作用するところ、政治は其用なきがゆゑに退場する。政治が作用しなければならぬところ倫理の無力が示される。新なる體制をつくつて政治を介入せしむる必要ありと見るものが、經濟倫理を唱道するのは自家撞著である。

四

日本の經濟は前にも述べたるが如く、それは條件統制の範圍をこえてつとに需給の官治統制に入りこんでゐる。けれどもそれは周知の如く其目的を達してゐない。たゞ物價だけをとつてきても、所期の目的と現實の經濟の進行との開きのただけであるか、それは闇相場の事實が之を物語り物資の不足が之を示す。かゝる事情に刺激せられて常識及びそれに支持せられてゐるチャナリズムの見解は次の如くに動いてゐる。需給の官治統制即ち現在政府の行ひつゝある統制の作用乃至射程には一定の限度がある。物價問題、ひいては今の經濟のすべての問題を適當に解決するには現在より多くのものを要する。それは即ち統制の爲の業者の集團機構いはゞ組合組織である。これを組合といふ形式のみにては表現し盡せぬ場合もあるが、それをはなれて考へよう。更にこれを運営するところの新しき經濟道德である。いはゞ利潤の追求をはなれて、國家の必要に應ずる生産のための職能

の自覺の上に行動するといふ立場である。勿論これは何等かの創造を意味するとはいひがたい、獨伊の全體主義國家の實行しつゝあるところを十分に吸収せざるがゆゑに、日本の經濟統制が十分に目的を達せずといふ見方である。それと共に、かゝる見解は割合に樂觀的である。それはかゝる組合的體制を整へることが出来るならば、それによつてかゝる新しき道德も行はれるであらうし、行はれなければ組織の力を以て之を強行するし、經濟の困難はすべて打開せらるるであらうと見る。要するに、現實の經濟に於ける困難をすべて單に官治統制に止まつてゐる體制の缺陷に歸しようとするのである。勿論その體制の内容については種々なる見方もあるであらう。伊太利の職能を中心とする組合組織を直にとるべからずとするものもあらうし、獨逸の勞働前線や經營共同體を中心とする組織をそのままに輸入せずとするものもあらう、而して日本特有の、而して現にあるところの種々なる集團を利用し包容し組織化して包括的體制を作り上げようとする意見もあるであらう。けれどもこれらの何れであるにせよ、日本の産業に有機的組織しかも一種の細胞組織を與へようとする點に於ては一であると思ふ。此點は如何であるにしても、日本經濟の困難は主としてかゝる組織又は體制的點から來てゐるであらうか。勿論此困難は戰爭の繼續そのことから來てゐるから如何なる方法をとつても打開し得べからずと見る立場は、私の議論の外に置かれてゐる。私がかゝる議論を考慮しないのはそれととりがたしと見るからである。

日本は戰時の必要に應じて——而して戰後といへども同一の必要が續くと思はるが——前に述べたる意味に於ける需給の統制に入りこんでゐる。その上、豊富ならざる生産の中から軍需ならびに將來の軍需の爲の資材を確保する必要に迫られて居り、其爲に統制が生産量の極大を求むるに止まらず、生産の質にまで及ぶべき事態に

達してゐる。かゝる事態に於て、一定の條件をさへ與へるならば自由なる需給の出席ひによつてすべてが解決せらるべしといひがたい。若し單に問題を物價のみに限るならばさういひ得る一面があるにしても、經濟の全面についてはやはりさう斷定せざるを得ぬ。けれども、今日の經濟上の困難のすべてが組織の缺陷から來るとは考へがたい、寧ろそれは重點を置きがちでゐるのではないかと思ふ。例へば物價の問題だけをとり上げて見よう。物價問題が本來各商品の價格に重點を置くことによつて解決せられようとしてゐる。金融又は信用の側を考へないことはないといはるかも知れぬけれども、物價の問題が當初から商工省の所管に屬したる一事は歴代内閣の認識のほどを物語る。私は勿論英米式の條件統制の萬能論者ではない。けれども、物價政策の如きは本來購買力統制即ち條件統制によつて徹底的に行はれ得べきものではないかと思ふ。而も此重點を忘れて、一々の價格を釘付けにしようとしても、それは中々に困難である。一々の取引行爲を監視し得ることによつて目的を達するか、又は國民が私利を全くすて去るだけの態度をとることによつてのみ可能となる。ところが國民の道德的改造が急に行はれ得ないとすると、監視の外に道がないといふことになる。而も今のところ、どれだけ經濟政策を強化しても物價が統制しにくいといふこととならざるを得ぬ。けれども考をかへて見よう。條件統制を強化し購買力の吸収を十分に實現し得たとせよ、例へば生産力擴充資金をある程度におさへ得たと考へよ。商工省の價格公定は全く補完的效果をあげるといふことになる。價格水準だけに關する限りは需給の自然に委せても所期の目的を達し得ないとは、少くも理論的に云ひ得ない。勿論戰時のことであり、物資の上に統制が加はり、物資動員計畫が行はれねばならず、その點から需給の作用の上に干涉の加はることは已を得ざる成行ではあらう。けれども、物

價政策の十分に行はれ得なかつたこと自體に對しては前述の如く條件統制の過誤があり、此過誤は認識の不足から來る、いはゞ經濟法則の無視から來る。

私は物價政策がこゝまで來てしまへば、一方條件統制を強化することの必要を認むるとともに、價格統制を強化し需給への干渉を嚴重にすることも已むを得ずと考へる。而して此目的の爲に經濟の組織乃至新體制が要望せらるるに至るであらう。爲替や貿易は通路が限定せられてゐるから其統制が甚だしく困難であるとは考へられぬ。たゞ一般物價については一億の國民皆取引の當事者であり、其行動を直に經濟警察の力を以て取締り得べきものとは考へられぬ。そこに細胞組織的な體制が利用せられよう。それらが自治的組織をもつ限り各人の監視が十分に行き届く。而もそれらが國策に協力し國家目的に順應することが國家權力により強要せられ、輿論によつて勸奨せられ、それに背きがたくなるときに、此監視が國家の利益の爲に行はれる。各主體の行動が單なる利潤の追求を離れて若干とも國家の目的に向ふ。これを經濟の倫理化と表現するものがあるにしても、其實周圍の未然の制裁に對して順應したるもの、内心の命令から自らそこに進めるものではなく、決して經濟倫理の發達といひ得べきものとは考へられぬ。

國防の目的を高調するときに、物資の生産が一方に於て軍需に重點を置き不急のものを後にせざるを得ぬこととなり、従つて一定の計畫によつて指導し統制せられざるを得ぬ。而もそればかりではない。戰爭繼續の結果物資不足はさげがたい。かゝる事情の下に於て、生産諸要素を最も有効に割當てることを要する。これらの目的を達する爲にはどうしても官治の組織のみを以て足れりとせず、業者の集團組織を要し、その體統を必要とす

る。事情の調査もそれに基く物資の割當も、それによつて圓滑に實現せらるべき通路がひらける。要するに、新しい體制はそれが業者又はその他の經濟主體の集團の宏大なる統一を意味する限り、國防國家の經濟にとつて不可缺の狀勢にある。それなくして計畫經濟の段階にまで達する統制を有效に實現し得ること、まことに困難である。けれどもこゝに一の問題がある。體制は經濟上のすべて問題を容易に解決し得るか。決してさうではない。それは經濟上の法則に従はずしては、其目的を達することかたい。

五

所謂組合的組織即ち統制のための全面的體制が何故に官治統制のみの爲し得ざるところを爲し得るか。後者が警察網を無限に擴張し得ざるに對し、前者にあつては各の職能的なる、乃至其他の關係にもとづくところの集團はいはゞ一々の細胞が監視の機關として作用し得るからである。今日人々の全面に近き交渉は其職能を通して行はれる。大都市生活は近代生活を代表するといはれるが、そこでは兩隣顔を知らざることすらもある。かういふ關係の上に監視の行はるゝことはかたい。隣が買溜をしても闇相場をやつても知る術もない。又それに何等の關心もたぬ。これに反して職業を通しての交渉は最も密接である。相互に互助者であり競争者であり同情者であり理解者であり、嫉視者である。従つて相互の間の消息もよく分り、何をやつてゐるかも直に判斷せられ、相互間の關心も深い。これらが集團を作り互に統制し、互に監視し、又相互に政府の方針に向つて進まうといふ集團意志が成立することになるのみならず、政府また其權力を以て之を擁護しようといふことになると、こゝに其統制が可なりに緻密になることが出来るし、其相互的制裁も亦司法權のそれに代位することすらもあり又周到なるこ

ともある。今日、闇相場によつて富をなすものは屢々同業者に向つて誇示するといふ。これは經濟倫理が確立せられぬからだといふが、形式だけをとつてみると誠に然り。けれども實質に於ては必ずしもさうではない。かゝる集團的な統制組織が出来ると集團の意志による拘束、制裁が行はれる。その監視と統制に従ふから、もはや闇取引を誇示し得ないやうになるだけである。自發的な良心の勝利に非ずして外面的なる制裁の勝利である、摘發を恐れて何十萬圓を寄附するのと其動機に於て甚しく遠くはない。倫理に非ずして強制である。勿論此強制久しきに及べば習慣を生じ情性が生れ良心の赴く所そこに一致するに至り得るであらう。それは集團によつて教育せられたる結果である。集團の營むところの強制が直に經濟倫理であるとはいひがたい。それを新倫理の確立といふが如きは一の虛名にすぎぬ。

それは何れともあれ、官治統制のみの爲し得ざるところを、集團的、詳言すれば、職能的集團的統制が爲し得るといふ理由はこゝにある。勿論職能的集團が形成せられたからとて、直にそれがかゝる機能を營み得るとは限らぬ。それは或は利益擁護のみの集團でもあり得ようし、又は争鬭の集團であるし、互助のみの集團でもあり得よう。けれども集團の背後に助長者として擁護者として乃至強制者として國家があり、それに一定の精神、一定の公益支持の精神を強要する場合に於ては、又は輿論の勢力があり集團をしてかゝる方針に向はしむる場合には、全神經が貫流してゐる此組織そのものが此方向に向つて全活動を統制するといふことになる。比喻を以ていふと、かゝる組織をもたぬ全經濟界といふものは個々ばらばらのものであり、従つて政府に於て一定の意志による統制を行はうとしても、それはたゞ一の報道として、一の知識として傳はるけれども、一の意志として相手の

魂を動かすものとしては傳はらぬ、そこには神經が通つてゐないからといふことになる。新しき組織の確立によつて上意下達、下意上達を實現しようといふことをいふ人があるが、それは此邊の消息を常識的に表明したるものではないか。

要するに官治統制が其限界を示してゐる。單なる官治統制とても其爲し得るところは相當に廣い。一方に條件統制を行ふと共に他方に於て行動統制即ち需給への干渉を行ふ。二者が相一致し又は相接近する限りに於ては價格政策も物資政策も順當に行はれ得る可能性がある。けれどもこれには知識的理論的準備を要する。この用意を缺いて、一方この結果を生すべき條件を與へ、他方甲の實現を求めて需給干渉を行ふとしたらば、何百萬の警官を養成してもなほ足らぬ。此意味に於て單なる官治統制、略していふところの統制のなしうるものには限界がある。この限界をこえたる成果を求めようとするならば、必ずや新しき組織即ち新しき體制にまたねばならぬ。體制の意義と機能とはまさに此點にある。即ち體制は統制の補完者である。けれども注意すべきことには體制は萬能でない、その補完作用には限度がある。

今日の統制はすでに需給そのものの干渉に進んでゐる。ところで新しき體制が出来れば如何なる内容の干渉でも出来るかといふと、さういくべき理由はない。新しき體制といへども經濟機構の根本をかへることはない。公益優先といひ減私奉公といつてみたところで、それは心構への點であつて、もつと學問的表現をすると拘束的威力をもつてのぞむ社會意識のことであつて、經濟活動の根本の動力は個人の利益である。今の全體主義といつても獨伊の經濟は決して資本主義的性質を失へるものではない。かういふ點から見ると、統制の内容と與へられたる條件

との間には若干の接近あることを要する。條件から經濟法則によつて生るものが統制の求むる内容であるときには、統制は形式だけで其實無用となる。若干の距離があると、それはまづ國權によりて、いはゞ職權と警察網によつて強行せらるるであらう。更に強き距離を克服する爲に、いはゞ統制内容を實現せしむる爲に體制の力が役立つ。けれども體制の力とても無限ではない。自然の大勢とあまりにも距離あることがらを強行しようとしてもそれには限度があるであらう。而して個人は警察の組織を如何ともすることが出來ぬが、しかしながら體制の一員として、それに作用を及ぼすことは出来る。統制のもとむるところが經濟法則の結果するものとあまりにへだたりをもつときには、求むるものが容易に實現せられないばかりではない、體制そのものの破壊を誘致するに至らずとせぬ。此意味に於て體制は決して萬能ではない。體制を存續せしめ、それが十分に機能を發揮しうるやうにする爲には、統制そのものがあくまで經濟法則の線に沿ふことを要しよう。それに沿はざるとき統制はかへつて有害のものとなる。體制は統制を實現せしむる補完手段であるが體制さへ整へば何でもやれると思ふならば甚だしい錯覺である。今までの爲政家のやつて來た跡から見ると、一抹の不安なしとせぬ。若し夫れ、日本の現在の國情に於て如何なる體制が出來上るか、それがどこまで強力のものたりうるかについては論じたいこともあるが、後日を期することにする。(昭和十五年八月八日朝)